

始めに

今回、長野式臨床研究会の講師陣の症例を出すことになりました。

各講師の長野式治療歴も長く、治療も手際がよくなってきていますので、症例報告というより、治療の楽しさを伝えられればいいかなという主旨で始めました。

治療のポイント、コツ、流れなど感じていただければ幸いです。

大阪・北陸支部 長谷川吾朗の症例『ぎっくり腰』

ありふれた病名だが、皆さんが多く出会う症状なので、あえて取りあげてみました。

『ぎっくり腰①』 48歳 女性 高校教諭 初診 22年12月20日

『ぎっくり腰②』 77歳 男性 ガソリンスタンド勤務 初診 22年12月30日

『ぎっくり腰③』 54歳 女性 IT関連 初診 23年1月18日

「主訴①」 腰の中央部の痛み

「主訴②」 右腰の強い痛み

「主訴③」 腰全体の痛み

「現症①」 3日前キヤツとして、昨日までは何とか動けたが、今朝玄関で動けなくなった、義理の父に肩を支えられ来院。そのままベッドに腹臥位でなだれ込み、ここから動けない。

「現症②」 10日ほど前にキヤツとして、動けるが何をやっても痛い。

「現症③」 昨日雪かきをしていてギヤツとして、腰をかがむ事も伸ばすことも出来ない。

「所見①」 (脉状) やや細遅

(腹診) 腹臥位しかなれないので不明

(火穴) 両然谷(+)

(局所) 天牖(+)、胸鎖乳突筋(+)、下腿後側が異常に硬い

「所見②」 (脉状) 洪結

(腹診) 両天枢、両中注、両大巨それぞれ膀胱に響く(前立腺肥大ある為)

(火穴) 特記なし

(局所) 天牖(+)、翳明(+))それぞれ右の方が強い、下腿後側(やや硬い)

「所見③」 (脉状) 細緊数

(腹診) 両中注(硬い)

(火穴) 特記なし

(局所) 両天牖(+)、両胸鎖乳突筋(+)、下腿後側(少し硬め)

『ぎっくり腰①』 48歳 女性 高校教諭

初診 22年 12月 20日

「主訴①」 腰の中央部の痛み

「現症①」 3日前キヤツとして、昨日までは何とか動けたが、今朝玄関で動けなくなった、義理の父に肩を支えられ来院。そのままベッドに腹臥位でなだれ込み、ここから動けない。

「所見①」 (脉状) やや細遅

(腹診) 腹臥位しかなれないので不明

(火穴) 両然谷(+)

(局所) 天牖(+)、胸鎖乳突筋(+)、下腿後側が異常に硬い

「処置①」 「扁桃」(復溜・天牖)、「硬い下腿の膀胱経」の緊張を雀啄で緩め、「帯脈」

「経過①」 2回目(2日目)、症状は殆ど気にならないが、少し前かがみが怖い。脉状、やや弦遅。腹診、左天枢(+)、両大巨(+)、左中注(+)。火穴、然谷(やや+)。局所、天牖(+)、胸鎖乳突筋(+)。下腿後側(硬さが殆どない)。「扁桃」「瘀血」「筋緊張緩和」「帯脈」。

3回目(10日目)、症状全くない、香川まで法事に車で行ったが全く違和感もなく、前屈も怖くない。脉状、やや弦遅。腹診、左天枢(やや+)、両中注(やや+)、両大巨(やや+)。局所、天牖(やや+)、胸鎖乳突筋(+)。下腿後側(柔らかい)。「扁桃」「瘀血」「筋緊張緩和」。

2月に入って、ご主人が治療に来院、奥さんは再発全く無い、いたって元気だという。

『ぎっくり腰②』 77歳 男性 ガソリンスタンド勤務 初診 22年 12月 30日

「主訴②」 右腰の強い痛み

「現症②」 10日ほど前にキヤツとして、動けるが何をやっても痛い。

「所見②」 (脉状) 洪結

(腹診) 両天枢、両中注、両大巨それぞれ膀胱に響く(前立腺肥大ある為)

(火穴) 特記なし

(局所) 天牖(+)、翳明(+))それぞれ右の方が強い、下腿後側(やや硬い)

「処置②」 「扁桃」(復溜・天牖)、「瘀血」(中封・尺沢)、「洪脉」(関元)、「前立腺」(両曲泉に21 壯の多壯灸)、「下腿後側」「帯脈」

「経過②」 2回目(19日目)、暫くよかったが、寝たときに重い位。脉状、洪。腹診、両天枢、両大巨、両中注(膀胱へ響くのは少ない)。局所、天牖(-)、翳明(-)、胸鎖乳突筋(-)。下腿後側(大分柔らかい)。「扁桃」「瘀血」「洪脉」

「前立腺」「下腿後側」「帯脈」。

3回目(36日目)、次の日から、痛みが全く無くなった、嘘みたいと喜ばれた。トイレが遠くなり、夜中も起きない。脉状、ほぼ平脉。腹診、膀胱に多少響く。局所、天牖(ー)、胸鎖乳突筋(ー)。下腿後側(ー)。「扁桃」「瘀血」「前立腺」。これで略治とした。

『ぎっくり腰③』 54歳 女性 パソコン関連 初診 23年1月18日

「主訴③」 腰全体の痛み

「現症③」 昨日雪かきをしていてギョツとした、腰をかがめることも伸ばすことも出来ない。

「所見③」 (脉状)細緊数

(腹診)両中注(硬い)

(火穴)特記なし

(局所)両天牖(+)、両胸鎖乳突筋(+)、下腿後側(少し硬め)

「処置③」 「扁桃」(照海・天牖)、「瘀血」(中封・尺沢)、「筋緊張緩和処置」(丘墟・上四瀆)、「自律神経調整」(イヒコン)、「帯脈」

「経過③」 2回目(2日目)、昨夜は楽に眠れたが、今朝八割位痛い。脉状、細緊数。腹診、両中注(+)、右大巨(+)。局所、天牖(+)、胸鎖乳突筋(+)。下腿後側(まだ少し下腿)。「扁桃」「瘀血」「筋緊張緩和」「自律神経調整」(イヒコン)「帯脈」。

3回目(3日目)、だいぶんいい、動作がスムーズ。脉状、細。腹診、右中注(やや+)、右天枢(やや+)。局所、天牖(やや+)、左胸鎖乳突筋(やや+)。下腿後側(少しだけ硬さがある)。「扁桃」「瘀血」「細脉」(三陰交・内関)「下腿後側」「帯脈」。

4回目(7日目)、殆どいいです。脉状、細数。腹診、右中注(やや+)。局所、天牖(ー)、胸鎖乳突筋(やや+)。下腿後側(柔らかい)。「扁桃」「瘀血」「細脉」。その8日後に、仕事で来院。「先生！ばっちりです！」と…。略治とする。

「考察」 今回、3人のギックリ腰を載せたが、所見で共通することは、「扁桃」「瘀血」「自律神経」「下腿後側の硬化」でした。

症例①のなだれ込むように腹臥位での診察から、下腿の異常な硬化が目についた。何故だろう？から始まったのですが、下腿後側は長野式のイヒコン処置に使うもの。症例①は「然谷」(+)。症例②は「腹部全体」が膀胱

に響く位強い反応。症例③は「細緊数」。いずれも交感神経緊張状態を現すもので、自律神経調整が必要なものばかり。このイヒコン、膀胱経ですが、腰をめぐり、頭に影響するもの。つまり、ここの異常は、膀胱経全体に異常を現すと考えられるのでは。

結果として、下腿の下腿部分(特に委陽～裏陽陵泉辺りの硬さが目に付いた)の硬化を和らげる事で、腰の緊張が解けてきたのでは？

よく考えれば、3人ともストレスの塊。日ごろのストレスが、年末にピークに達し、冷え、疲労が伴い発症していったものと考えれば、自律神経、扁桃、瘀血にも影響が出ているのもうなずける。ストレス社会を生きぬく我々現代人には、この膀胱経もまた疲労しやすいのでは。ぎっくり腰は腰の使いすぎと決めつけている一般常識に、ストレス関与が大きな意味を持つことを考えなければいけないのでは。

今回、ぎっくり腰の症例を取り上げたが、この症例以来、ストレス関与の症例で、イヒコンの異常を調べてみている。すると、この部の硬化があるものが非常に多いことが判った。後頸部痛、背部痛、肩甲間部痛、肩甲骨部痛、頭痛、眼痛、どれも膀胱経上もしくは、膀胱経と同じ太陽経の小腸経の経絡上の痛みには効果があるということを感じている。今後もイヒコン調査を続けてみたい。

このイヒコンは帯脈や、筋緊張緩和処置と同様、効果があるが、所見の診断をしっかりと処置をしていかないと、イヒコンに異常を見つけて、ここだけ処置をしても効果は薄い。所見におかしいところが現れているので、この自然治癒力阻害因子の改善のための付帯として考えていただきたい。

今回の下腿後側の硬化を和らげる刺鍼は、症例①の初診時以外、座位にて、術者は患者の前に座り込み、左右同時に前側から下腿の後に手を入れ、下腿後側の硬化をじっくり探し、一番反応の強い所に、刺鍼雀啄の抵抗感が緩むまで、じっくりと雀啄を行いました。

皆さんの追試をお願いしたいです。